

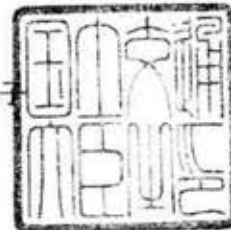


# 認 定 書

国住指第 1210 号  
平成 15 年 7 月 31 日

JFE スチール株式会社  
代表取締役社長 数土文夫 様

国土交通大臣 林 寛子



下記の構造方法又は建築材料については、建築基準法第 68 条の 26 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 37 条第二号の規定に適合するものであることを認める。

## 記

1. 認定番号  
MSTL-0130
2. 認定をした構造方法又は建築材料の名称  
建築構造用 550N/mm<sup>2</sup>TMCP 鋼材 HBL385B, HBL385C (西日本製鉄所・福山地区)
3. 認定をした構造方法又は建築材料の内容  
別添の通り

1. 件名『建築構造用 550N/mm<sup>2</sup>T M C P 鋼材 HBL385B, HBL385C (西日本製鉄所・福山地区)』

2. 建築材料の適用範囲

建築構造用 550N/mm<sup>2</sup>T M C P 鋼材 HBL385B, HBL385C は、建築物あるいは工作物に用いる引張強度 550N/mm<sup>2</sup> の圧延鋼材であり、切断、穴あけ、曲げ、溶接などの加工をして用いられる。

建築構造用 550N/mm<sup>2</sup>T M C P 鋼材 HBL385B, C の種類及び記号は、表 1 による。

表 1 品種及び適用範囲

種類の記号	適用厚さ
HBL385B	19mm 以上 100mm 以下
HBL385C	

3. 建築材料の品質基準

3-1) 機械的性質

建築構造用 550N/mm<sup>2</sup>T M C P 鋼材 HBL385B, HBL385C の降伏点又は耐力、引張強さ、降伏比及び伸びは表 2 による。

表 2 降伏点又は耐力、引張強さ、降伏比及び伸び

種類の記号	降伏点 又は耐力 N/mm <sup>2</sup>	引張強さ N/mm <sup>2</sup>	降伏比 %	伸び %		
				厚さ t (mm)		
				t < 38 1A号	t ≤ 50 5号	4号
HBL385B	385 以上	550 以上	80 以下	15 以上	26 以上	20 以上
HBL385C	505 以下	670 以下				

備考 1. 降伏比 = (降伏点又は耐力 / 引張強さ) × 100

建築構造用 550N/mm<sup>2</sup>T M C P 鋼材 HBL385C の厚さ方向特性は、表 3 による。

表 3 厚さ方向特性

種類の記号	絞り %	
	3 個の試験片の平均値	個々の試験値
HBL385C	25 以上	15 以上

建築構造用 550N/mm<sup>2</sup>T M C P 鋼材 HBL385C の超音波探傷試験は、表 4 による。

表 4 超音波探傷試験

種類の記号	判定
HBL385C	JIS G 0901 の等級 Y による

### 3-2) 化学成分

建築構造用 550N/mm<sup>2</sup>T M C P 鋼材 HBL385B, HBL385C の化学成分は、表 5 による。

表 5 化学成分 %

種類の記号	C	Si	Mn	P	S
HBL385B	≤0.20	≤0.55	≤1.60	≤0.030	≤0.015
HBL385C	≤0.20	≤0.55	≤1.60	≤0.020	≤0.008

備考 1. 必要に応じて、表 5 以外の合金元素を添加できる。

### 3-3) 溶接特性

建築構造用 550N/mm<sup>2</sup>T M C P 鋼材 HBL385B, HBL385C の炭素当量又は溶接割れ感受性組成は、表 6 による。

表 6 炭素当量又は溶接割れ感受性組成 %

種類の記号	厚さ mm	炭素当量 %	溶接割れ感受性組成 %
HBL385B	19 以上 50 以下	0.40 以下	0.26 以下
	50 超 100 以下	0.42 以下	0.27 以下
HBL385C	19 以上 50 以下	0.40 以下	0.26 以下
	50 超 100 以下	0.42 以下	0.27 以下

備考 1. 受渡当事者間の協定によって、炭素当量の代わりに溶接割れ感受性組成を用いることができる。

備考 2. 受渡当事者間の協定によって、表 7 に示す溶接熱影響部靱性感受性組成を用いることができる

表 7 溶接熱影響部靱性感受性組成

種類の記号	溶接熱影響部靱性感受性組成 %	
	多層盛り 70J 目標	多層盛り 27J 目標
HBL385B	0.577 以下	0.632 以下
HBL385C	0.577 以下	0.632 以下

$$\text{溶接熱影響部靱性感受性組成 (\%)} = C + \frac{\text{Mn}}{8} + 6(P+S) + 1.2N - 5Ti$$

(ただし、Ti 量が 0.005% 以下の場合は Ti 量を 0 とする。)

建築構造用 550N/mm<sup>2</sup>T M C P 鋼材 HBL385B, HBL385C のシャルピー吸収エネルギーは、表 8 による。

表 8 シャルピー吸収エネルギー

種類の記号	試験温度	シャルピー 吸収エネルギー	試験片
HBL385B	0℃	70 J 以上	V ノッチ 圧延方向
HBL385C			

備考 1. シャルピー吸収エネルギーは、3 個の試験片の平均値とする。

4. 建築材料の形状及び寸法

建築構造用 550N/mm<sup>2</sup>T M C P 鋼材 HBL385B, HBL385C の形状、寸法、質量及びその許容差は、JIS G3136（建築構造用圧延鋼材）の 7.（形状、寸法、質量及び許容差）による。  
ただし、適用厚さは、19mm 以上 100mm 以下とする。

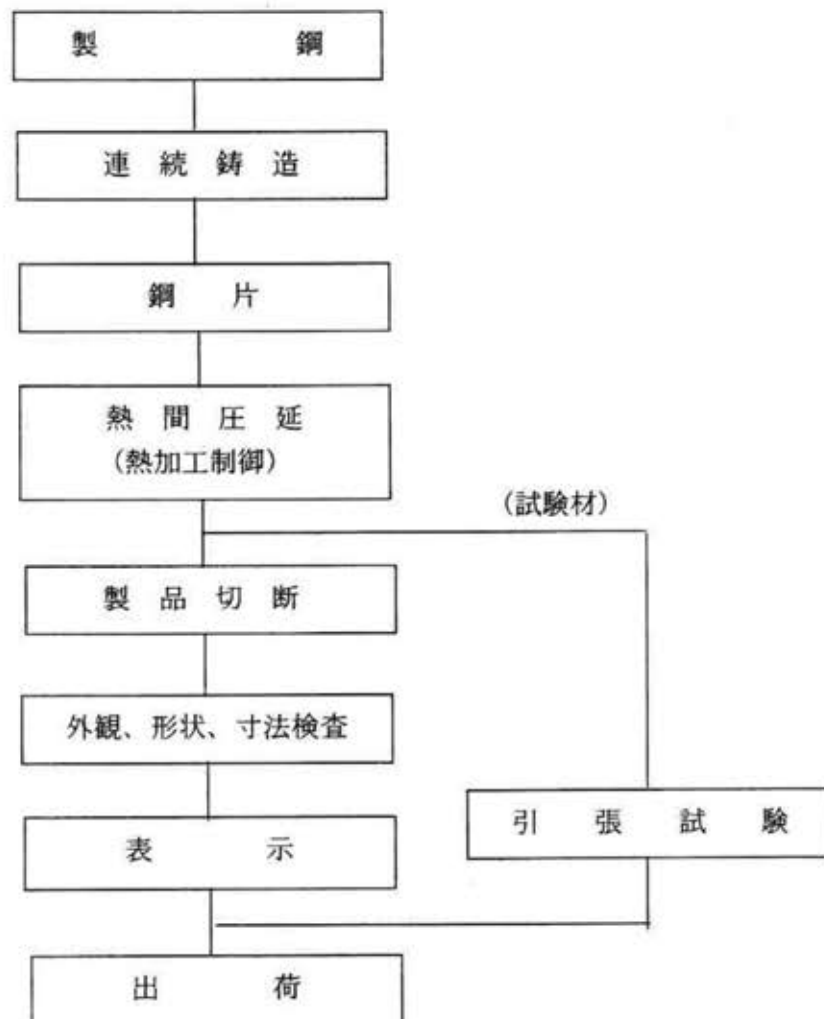
5. 建築材料の製造及び検査の体制

5-1) 製造工場の名称及び所在地

名 称 : J F E スチール株式会社 西日本製鉄所（福山地区）  
所在地 : 広島県福山市鋼管町 1 番地

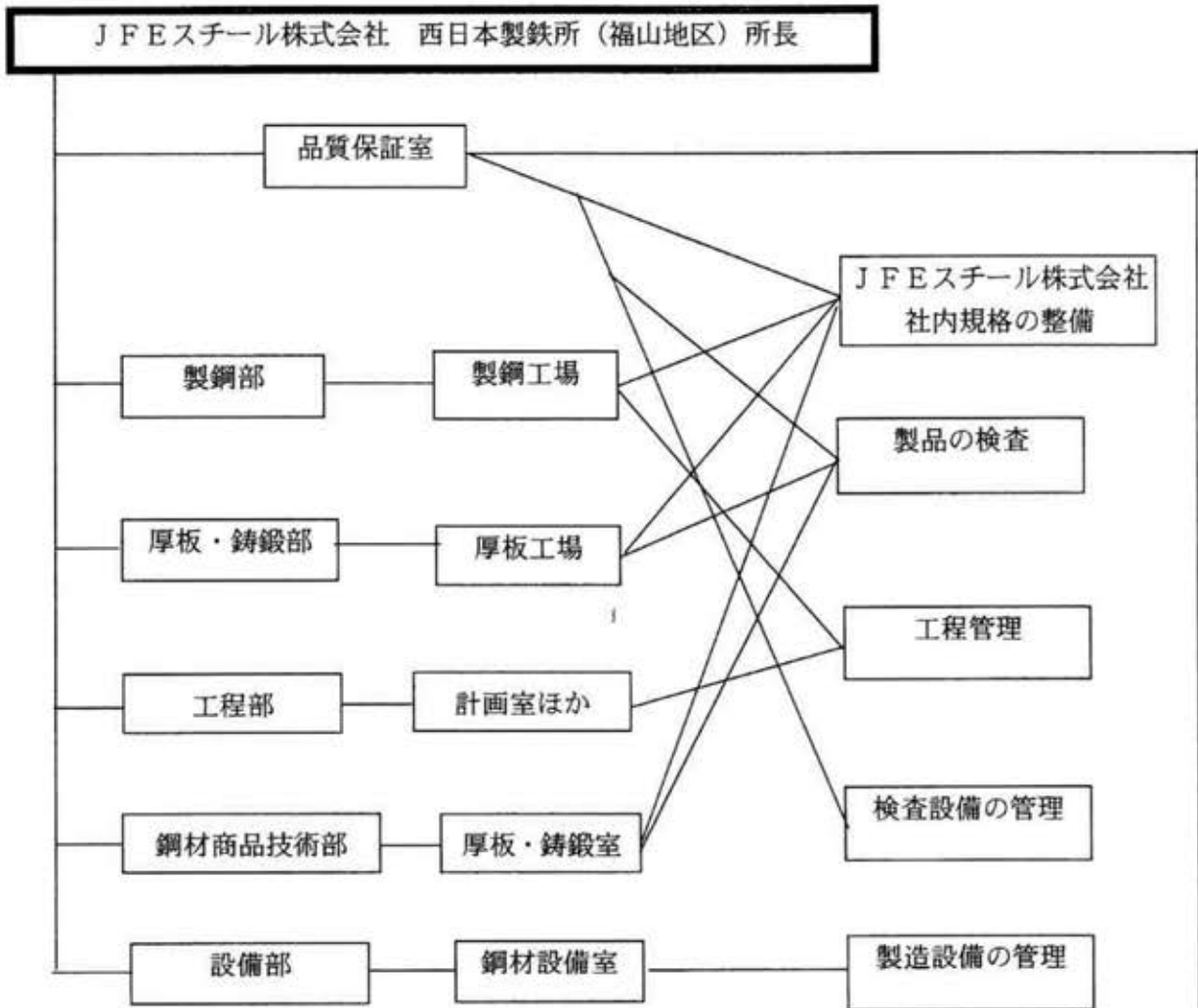
5-2) 製造工程及び検査工程

建築構造用 550N/mm<sup>2</sup>T M C P 鋼材 HBL385B, HBL385C の製造工程及び検査工程の概略フローを次図に示す。



6. 品質管理体制

建築構造用 550N/mm<sup>2</sup>TMC P鋼材 HBL385B, HBL385C の品質管理体制を下図に示す。



※品質保証室長は、品質管理推進責任者として以下に掲げる職務を行なう。

- ・品質管理に関する計画の立案及び推進
- ・社内規格の制定、改正等についての統括
- ・製品の品質水準の評価
- ・各工程における品質管理の実施に関する指導及び助言並びに部門間の調整
- ・工程に生じた異常、苦情等に関する処理及びその対策に関する指導及び助言
- ・就業者に対する品質管理に関する教育訓練の実施
- ・外注管理に関する指導及び助言

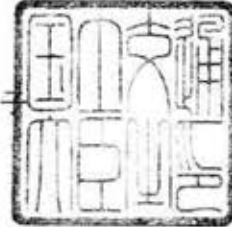


# 指 定 書

国住指第 1210-2 号  
平成 15 年 7 月 31 日

JFE スチール株式会社  
代表取締役社長 数土文夫 様

国土交通大臣 林 寛子



下記の建築基準法第 37 条第二号の国土交通大臣の認定を受けた鋼材等に係る許容応力度等の基準強度について、平成 12 年建設省告示第 2464 号第一第二号、第二第二号、第三第二号及び第四第二号の規定に基づき、下記の通り数値を指定する。

## 記

1. 認定番号  
MSTL-0130
2. 認定をした構造方法又は建築材料の名称  
建築構造用 550N/mm<sup>2</sup>TMCP 鋼材 HBL385B, HBL385C (西日本製鉄所・福山地区)
3. 指定する数値

(1) 許容応力度の基準強度 385 N/mm<sup>2</sup>

(2) 溶接部の許容応力度の  
基準強度 385 N/mm<sup>2</sup>

(3) 材料強度の基準強度 385 N/mm<sup>2</sup>

上記の数値の 1.1 倍以下とすることができる。

(4) 溶接部の材料強度の  
基準強度 385 N/mm<sup>2</sup>

上記の数値の 1.1 倍とすることができる。